

元気のヒント

◁55▷



松香 芳三

徳島大学病院歯科
(かみあわせ補綴科)

非歯原性歯痛

痛みのある歯に対していろいろな検査を行っても、痛みの原因が見つからないことがあります。これは、歯に原因がないのに痛みを感じる非歯原性歯痛である可能性があります。非歯原性歯痛は歯科の中でも正式に取り上げられることはあまりなく、診断や治療法に関してはしっかりと検討されてきませんでした。2012年に日本口腔顔面痛学会が「非歯原性歯痛の診療ガイドライン」を出版し、その発症原因、症状、治療法などをまとめました。

歯に原因見つからず

発症原因は「表」のように分類されます。筋からの関連痛では、顔面の筋の凝りや痛みによって、歯には問題がないのに痛みを感じます。これは、筋の凝っている部位や痛む部位を5秒間圧迫することで、歯の痛みを再現させて確認します。治療はマウスピース、理学療法、抗うつ薬などを用いて筋痛に対処行われます。

筋や神経・心臓に由来も

神経が障害されることによる歯痛の原因は三叉神経痛や帯状疱疹後神経痛などで、電気が走るような痛みが生じ、治療には抗てんかん薬や抗うつ薬などが用いられます。

精神疾患や心理社会的要因による歯痛では、統合失調症、うつ病、身体表現性障害などのために、両側性、持続性、遷延性の歯の痛みが発症し、感情的な要因と症状が関連します。この場合、精神神経科、心療内科などでの診察が必要となることもあります。

特発的に発症する歯痛は診断基準が不明瞭で、詳細は分かっています。歯または歯周組織の痛みが数カ月以上持続し、客観的な器質障害の所見や画像所見の異常は認めないといった特徴を有します。特発性歯痛である非定型歯痛に対する治療には、抗うつ薬が有効

す。この場合、頭痛を同時に認めることから診断し、頭痛薬による治療が主なものとなります。上顎洞(副鼻腔)からの関連痛では、上顎洞の炎症や腫瘍により発症し、上顎臼歯部が痛みます。治療は耳鼻咽喉科や口腔外科などで上顎洞の病気に対して行われます。心臓病からの関連痛は狭心症や心筋梗塞などに由来し、強度の広範囲な歯の痛みを感じます。その後、胸痛、背部痛へと移行し「圧迫痛」「灼熱痛」を認めます。心臓病からの関連痛は循環器科、内科などでの精査や加療が必要です。

- 非歯原性歯痛の発症原因
- ①筋からの関連痛
 - ②神経が障害されることによる歯痛
三叉神経痛、帯状疱疹後神経痛など
 - ③神経や血管の異常による歯痛
片頭痛など
 - ④上顎洞(副鼻腔)からの関連痛
 - ⑤心臓病からの関連痛
狭心症、心筋梗塞など
 - ⑥精神疾患や心理社会的要因による歯痛
統合失調症、うつ病、身体表現性障害
(身体には問題がないのに症状が発現するなど)
 - ⑦特発性に発症する歯痛
非定型歯痛など
 - ⑧その他のさまざまな疾患により生じる歯痛
リンパ腫、側頭動脈炎、白血病、糖尿病など

このように、非歯原性歯痛はさまざまな症状を呈し、歯科以外の診察が必要なものもあります。歯に痛みを感じる場合には一度歯科で相談してみてください。